

# 心肺蘇生法の国際指針変更にともなう重要なお知らせ

(2006年1月)

心肺蘇生法の国際指針に関する変更が、国際蘇生連絡協議会(ILCOR)から、コンセンサス 2005(CoSTR)として2005年11月28日に公表されました。これを受けて、米国心臓協会(AHA)と欧州蘇生協議会(ERC)から新しいガイドラインが発表されました。

ILCOR コンセンサス 2005

[http://circ.ahajournals.org/content/vol112/22\\_suppl/](http://circ.ahajournals.org/content/vol112/22_suppl/)

AHA ガイドライン 2005

[http://circ.ahajournals.org/content/vol112/24\\_suppl/](http://circ.ahajournals.org/content/vol112/24_suppl/)

ERC ガイドライン2005

<http://www.erc.edu/>

Currents (AHA ガイドライン 2005 サマリー)

<http://www.americanheart.org/presenter.jhtml?identifier=3035674>

日本においては、日本救急医療財団心肺蘇生法委員会が日本版救急蘇生ガイドライン策定小委員会を立ち上げ、本邦の対応を直ちに検討し始めました。この小委員会の意義は、新しい心肺蘇生法の国際指針が出たことによる国内の混乱を防止することであり、日本の特性をも加味した指針を2006年3月末迄に公表することで、国家レベルでの統一見解を明確に示すことにあります。

日本版救急蘇生ガイドライン策定小委員会

<http://www.qqzaidan.or.jp/qgsosei/index.htm>

小児蘇生領域では Pediatric Advanced Life Support; PALS コースの開催が日本各地に広まりつつあり、新生児領域でも Neonatal Resuscitation Program; NRP が開催されようとしております。心肺蘇生法の国際指針変更は、こうした小児と新生児の蘇生教育プログラムに直接的に大きな影響を与えます。

日本蘇生協議会

<http://jrc.umin.ac.jp/>

日本小児集中治療研究会 (PALS 情報)

<http://www.ispicc.jp/index.html>

子ども家庭総合研究事業「小児科医・産科医・助産師・看護師向けの新生児心肺蘇生法の研修プログラムの作成と研修システムの構築とその効果に関する研究」班 (NRP情報)

<http://www.saitama-med.ac.jp/kawagoe/link08/link>

[06/symposium.html](http://www.saitama-med.ac.jp/kawagoe/link08/link06/symposium.html)

小児蘇生における CoSTR の主な変更点は、下記 10 項目です (注意: 日本としてのスタンスは 3 月まで未定)。

- ① 一次救命処置のアルゴリズムが大幅に変更され、効果的な CPR の実施と指導が強調された。
- ② 人工呼吸患者監視における、呼気炭酸ガスモニタ(カブノメーター)の使用が強く推奨された。
- ③ カフ付き気管挿管チューブの小児への使用を考慮してもよいとされた (新生児は除く)。
- ④ 蘇生中の高容量エピネフリンの使用は、ルチーンでは推奨されなくなった。
- ⑤ 抗不整脈薬であるアミオダロン静注製剤の有用性が、さらに強く確認された。
- ⑥ 心室細動・心室頻拍の際の除細動のアルゴリズムが変更された。
- ⑦ 1 歳から 8 歳の小児への AED 使用について、2003 年 ILCOR 勧告が是認された。
- ⑧ 心肺蘇生後の低体温療法の導入が考慮されるようになった (小児におけるエビデンスはない)。
- ⑨ 新生児: 羊水が胎便で混濁している場合の、ルチーンの分娩中口腔咽頭、鼻咽頭吸引を推奨しない。

⑩ 新生児:エピネフリンは、静脈投与を推奨する。経気管投与は静脈確保までの手段とする。

小児科学会としてもこの国家的プロジェクトに協力するため、上記小委員会に学会代表委員 2 名を指名、小児医療改革・救急プロジェクトチームとともに、本邦における小児蘇生・新生児蘇生のあるべき姿を提示するための体制を整えました。更にこのたび、小児科学会 HP(<http://www.ipeds.or.jp/>)にも最新情報をアップし、全国小児科医師の現場の声をパブリックコメントとして拝聴することと致しました。この機会に、小児科学会 HP の心肺蘇生関連最新情報にアクセス頂き、詳細情報を御確認のうえ、小児・新生児における今回の変更点につき御意見がございましたら [pals@zau.att.ne.jp](mailto:pals@zau.att.ne.jp) へ御連絡下さい（個々の御意見への回答は致しかねますので御了承ください）。

日本救急医療財団心肺蘇生法委員会	日本版救急蘇生ガイドライン策定小委員会
国立成育医療センター手術集中治療部医長	清水直樹（小委員会副委員長）
埼玉医科大学総合医療センター小児科教授	田村正徳
日本小児科学会会長	
東京慈恵会医科大学小児科教授	衛藤義勝
小児医療改革・救急プロジェクトチーム	
東京女子医科大学循環器小児科教授	中澤 誠